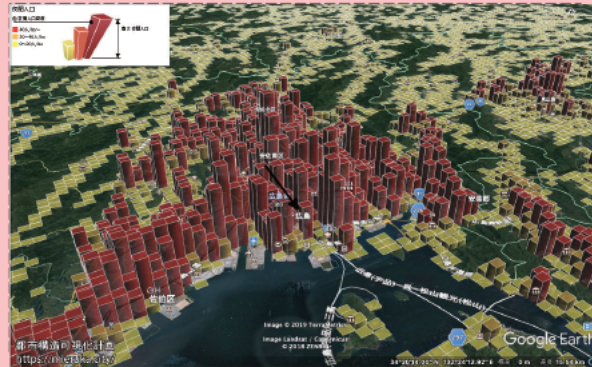


中国地方整備局のとりくみ

～管内自治体へのサイトPR～



中国地方整備局建政部

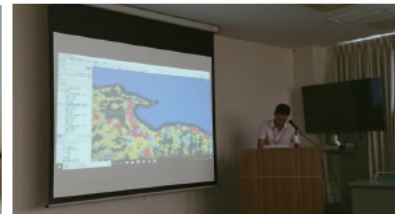
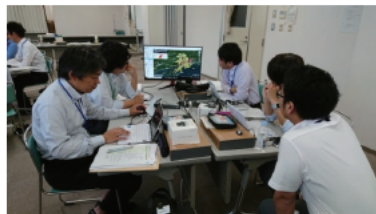
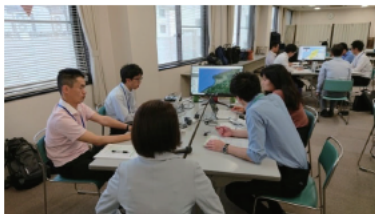
i-都市交流会議2020

1

1. まちづくりの現場で使える都市構造可視化研修会

中国地方管内の自治体職員を対象に研修会を開催

開催日 : 令和元年5月29日(水)～30日(金)
開催場所 : 中国地方整備局建政部会議室
参加者 : 鳥取県2名・島根県2名・広島県1名・江津市1名・岡山市1名・広島市1名・
福山市1名 合計 9名



※研修会では、昨年度研修を受け、今回講師で参加した岡山市職員から、可視化サイトを使用して岡山市の現状などの説明があり、研修参加者は具体的な活用の仕方を知ることができた。

【参加者からの感想】

- ・市民との共通認識のもと、まちづくりを考えていく上で、データの可視化は非常に重要であると考えており有益なサイトだと思った。
- ・数値的な面で今まで気づかなかった都市の課題となりうることに気づけた。
- ・研修を受け、市町村の担当者にもっと参加して欲しかった。

【参加者からのシステムに対する要望】

- ・公共交通機関を通勤通学で使用する人のデータについて、公共交通の便数等を加味したデータを追加するなど、違った切り口のデータがあればと感じた。
- ・若年層や生産年齢人口など様々な将来の経年変化があればと感じた。
- ・色の変化ができた、市街化区域のラインがあればと感じた。
- ・市が作成しているデータを可視化サイトへ取り入れてもらいたい。

i-都市交流会議2020

2

2.他の研修会での紹介

中国地方技術研究会において可視化サイトを紹介

開催日：令和元年7月3日（水）

開催場所：広島合同庁舎

内容：第70回中国地方技術研究会の指定課題にて、建政部より【「まちの再生」を考える】の一コマで可視化サイトの紹介を実施。

※中国地方整備局及び各県等の所掌する建設技術に関する調査・研究・開発の成果発表、建設技術に関する創意工夫及び行政事務に関する創意工夫の提案等を行うことにより、建設技術の向上と普及、また行政事務の効率化を図ることを目的とし整備局主催で開催。建政部の課題は、隔年実施。

県	自治体名	参加者数	県	自治体名	参加者数
鳥取県内	鳥取市	2名	広島県内	三原市	1名
	境港市	1名		尾道市	1名
	島根県	1名		福山市	1名
島根県内	松江市	1名		東広島市	1名
	大田市	2名		廿日市市	2名
	江津市	2名		北広島町	1名
	雲南市	1名	山口県内	山口市	1名
	津和野町	2名		宇部市	1名
岡山県内	岡山市	1名		山口市	1名
	岡山市	2名		岩国市	1名
	倉敷市	1名		柳井市	1名
広島県内	広島県	1名		周南市	1名
	竹原市	1名	合 計		31名

可視化サイトの紹介以外にも、「都市の低密度化、スポンジ化と立地適正化計画の適用について」、「官民連携まちづくり塾@福山の体験報告」をそれぞれ地整職員が報告。

その後、ワークショップを開催し、まちづくりについて自治体が抱えている問題点などを班に分かれて討議を実施。



i-都市交流会議2020

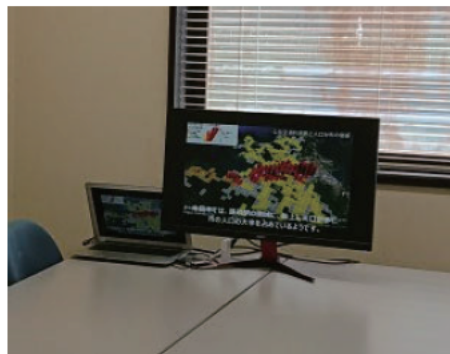
3

3.職場内での打合せ後の紹介

職場内での打合せ後に可視化サイトを紹介

■中国地方整備局建政部内の会議室に、可視化サイトを知ってもらうことを目的として、モニターを設置し可視化サイト紹介動画を上映。

■関心を持たれた自治体へは担当者から説明を実施するなど対応を実施。



モニターを常設



打合せ後にサイトの説明

i-都市交流会議2020

4

4.出張先での紹介

立地適正化計画コンサルティングにおいて可視化サイトを紹介

- 10月8日から9日にかけて、岡山県高梁市や笠岡市等へ立地適正化計画のコンサルティングを実施。
- コンサルティング後に、都市構造の可視化サイトを紹介し説明を実施。
- 立地適正化計画で誘導区域を考えてる上で有効なシステムであることを知って頂いた。



高梁市にて説明状況

笠岡市にて説明状況

5.可視化サイトを紹介して

中国地方整備局管内でのP Rを通じて感じたこと

1. 大都市において、経年変化などが大きく変化するため分かりやすいが、地方部においては、小さな値で変化が分かりづらい。
特に中国管内では、中山間地域が多く、データが大きくかわることもなくあまり視覚にうったえるものとならない。
2. メッシュが大きいと、地方部は変化が見えにくい。
3. 棒グラフで、背後の路線、駅等が見えにくくなり、位置が分かりづらい。
4. 使い方の事例があるとPRしやすい。
例) 居住誘導区域を設定するには〇〇と〇〇を見てエリア設定すると良い。
交通網計画を作成するには〇〇と〇〇を見て計画すると良い。
など・・・
5. データを見ることによって、何が言えるのか、気づくことができるのかを知らなければ、サイトに入ろうと思わない。

今後のPRの展開（案）

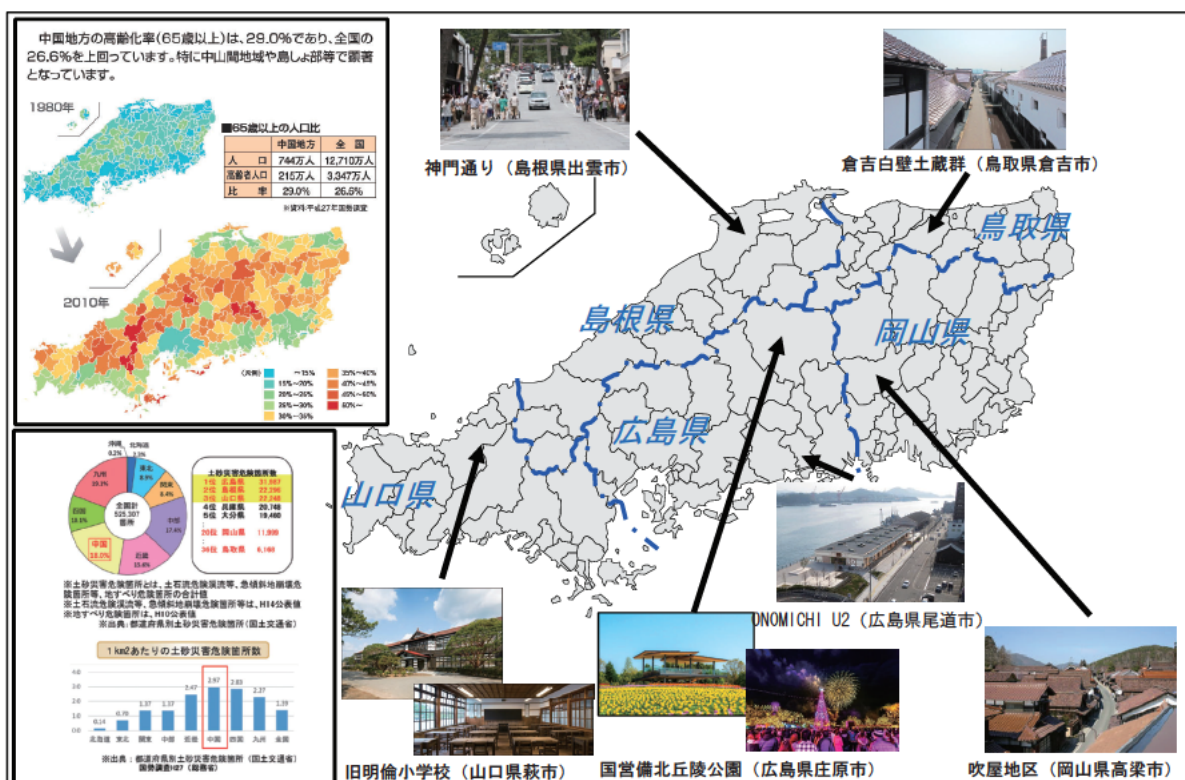
- ①立地適正化計画作成を行っている自治体へのPR（立地適正化計画作成においての使用ポイント等の説明を行う）
- ②使用したことにより発見できたことなど、使用事例集の作成（可視化したことによりメリットなどを紹介）
- ③社会資本総合整備計画などで目標設定などを説明していただく素材として普及するよう自治体へ促す
- ④行政職員だけでなく、立地適正化計画作成業務等を請け負う業者に対してPRを行う



i-都市交流会議2020

7

都市の紹介



i-都市交流会議2020

8